天七

日本名物画像集

竹々集

文々舎撰

日本名物画賛集

葛飾連

京 玉兎園 寸美丸

みちかへ
西栖人のきゝたれ
きこえくる笛子
飛して見るき
うろきうの声

琴樹園 二喜

大空へ
吹つゝる
園栖の翁の
ふえの音に
梅の梢の
香ハ薫りけり

戴斗筆

一宮 月廼門

はちまき
早ころもよ梅まで小袖
うちきたれ
たつくりの卵も
ちらぬ
うつりよ

星屋運世

太平く
あのくろの名ハ
とふりく
あまのはらの
歌よみつくる
新陸奥の梅

柳馬春路亭

太平く
ちか山へ
帰らり
さくやこの花
ころはまた
あまより春と
よろこびくらん

琴樹園

太平く
翁夷まちゝまゆちよりていまくるは
下戸のたてゝる恵比寿さまのや
ござれくおやく福ときさんと
かくし帰るとまちそいそくる

蓬莱舎亀任

駿府
松経舎
千代彦

太平く
新陸奥て
来まつりの
ためそいは
つるのあしに
まくたぬし

隅田河きしの桜の花の色ハ石原のうつるなるらん　満盛

きく〳〵隅田川桜のくもよ大風よつらくのさくらうら〳〵ハ花もり　高島　文鎮舎

めそくら
世の中にさくらの桜ハ花見る人のさくら待らん　京　玉兎園寸美丸

きく〳〵院のさくらのたねに世をもや隠居の床のつら織　西の屋山住

隅田川うつれる花の雲路てはあやうき舟の行らん　高島　海照

閑居花

一同めてくく
花の世をうしとのかれて来ても身に入花の日数のよくハなき花　善守

寺院花

寂世寺の花んむしろの帰るべきこともくさて春うれしさ　名古屋　西竹林友世

めそくら
秒康寺ならられハ前ちりてたとせぬ月にさ庭る雲花　上総苅谷　酒の屋呑安

夢中花

花一枝ぬもうし夢子にあはぬられさいやふしくうしる花の枝　難波　金流舎弘瀧

うつくし猶さくら花の山おろしにちるをうつるのさゆそそ　文操舎松年

廓中花

一同めてくく
中くらちるとくはなくて入あひにさくら吉原の花　在苅谷　日歌園皿

されたこそ別世界とハ売られさくら今をちくよし原　君山　蕉廣

めそくら
弱下駄をとめて往やたらふん花の雲のむさくのうれ　立異軒菊成

さく花の仲の町なる太夫ハ浪宿のそゆる清ちうのさき尖　在苅谷　皿

落花

雨月めてくく
さくしけの雲の山桜ちるを往くひと雪とふりてなれ　若山　妻也

雨のめてくく
さくらむとちくしはふらし山風のはりうちれあてはなてくめん　保

めそくら
ちらかる花のさくこハ山まちかさくの白とかよのりしのさき　名古屋　西風舎浦志保

さくらハ雪とふるとよその川あかれての世をきてくみね花　直正

吉野川ちれる桜ハそれのふのみ流れてこの花の末くらき　信州小諸　遊人亭永居

曲水

雨あてくく
雲とそみの流しくみ人ハよ作とうつる桜ハ花よるる　小川待絅

挑

海棠

茶摘

ふりしきる雨も月よとそへてむらしとさへのふたつなるかな　　清丸

めそくく
あはれなる名のたつの山や人房の袖をかつらん青葉のかひて　　風山人

掛けのつきみへんともよそろくのいくつのはるをそらにて日八　　青眼堂糸長

仏院のおかみけふえて極様さらく朝霞に見るまで盛上　　名古屋　唐歌

屁おめそくく
おもしろくさきやさるらん海棠を眠りのふるくまだゆめ見よ　　難波　弘胤

屁めそくく
さうはかるゑみにこほれてさくさへ下もしさらくる宇治の茶摘女　　柳馬

摘のわさをさへ人ものふ茶つくし宗祇はさしより風かをるあり　　仝

ゑ宇治女んてふ京家のかくてえて宇治の茶摘かかりなるかな　　待細

まさやめら袖はかなりけらぬえめかし摘と名も後茶を摘れ　　緻の屋宝女

めそくく
宇治の里茶つくし尽んとて何かきさき母んへこそめ人の作られ　　鳳来菴桐住

茶筆

うちむれて茶をつむ頃は気のそれて世をうちうちて作りのふさへ　　武州坂戸　五煉亭雀音

名それまて極稀はして宇治の里秋茶つむあり世なうち　　西岡　愛樹園梅胤

たかやうな茶の色は女つめる茶子の母の香で小ふるるおけふさ　　友垣仲好

おもむれておもしろきさへ極様なる宇治の茶摘女　　宝女

こころさきりの子らこさめさんとつまん茶の名は宇治のこてもの　　宝遊子國友

屁あめそくく
泊るねよ世は東茶を宇治川の流よつりくるに何の茶　　武州谷毎　木綿花園千絲

屁おめそくく
沸てる湯泊かくりの母つとやものうへ茶は出て人形　　織升

屁めそくく
人形はいろくろよ人をまねきぬるみかくりのよきさ宿て茶の　　千秋

うかれ女の眉かへまてつくみいまよその毛を結ふ　　檜園梅明

さを茶の間のまやそむけかん宿の筆毛のかるく有まじ　　清光舎忠好

文々舎撰

美努れ楫

葛飾連

清書もひろく扇ハすへつ方のふくるゝ都のうへのひろ紙　五老臺

ひろけし扇の末ハ清書もあまねくかゝるむかしさへ常　名母

清書も女あつかふ綾中の扇ハきつ目たゝしかりける　和風亭國吉

清書を扇にうつすのさへいれて風にまかせつゝいはれ秘めり　國友

ひろぐる扇ハ風のつかさにてまなひも雲よりも清書　高島 正雁

多の扇をひらきし筋に清書を地紙に雲のうつし絵の花　仝 夢丸

清書を雲に梅とちらしそめてひらけバ風のくばるなりけり　仝 文鎮舎

不二まての地紙ひろくて美しきたかねハ千世のまゝの扇也　難波 弘胤

當座　白毛舎撰

羽箒のかく

十三

なるまいやすくふかん竹ふちの鶴の羽箒　梅屋雀子

あしたや
名は麒麟〻
まつのうちする
おのか角にも
春小ある色
のし

朱楽
菅江

葛飾戴斗

釻外亭織弁

大和來まなゐる春の亀井町人の目をうつす鏡乃岳より

扇松垣

むさしのゝ月をみ八二条三条よりゆきのたしつて美しく春より

文莚舎酒盛

いさましく見る花や町井戸や町春ゝのあまたにきはひ栄る

閑壽亭

鄙人あしたゝ友を来ますてゝはまくふるされぬ花の春

秀耕舎稲道

春らしき海の浪のしまきん花の春をとつけ来よろめの春の新

和風亭國吉

まく葉は飾りて梅のかや之町月よ正月のたしえありけり

和真亭國正

らのよきひろぬるの内黒りかえしく町やさまのさくら秀

文蜘堂千曳

むつしき庭うてよりて侍ふらし耳塚りさくらくひきの部

下谷鶯橋 款心斎一入

三つ原の紙してみ水くゝて来る夫や浅草のぬるむあかり川

下総 大漁夫

那かひとつわさに江戸八ヶ所のよきなみよりの春のちらしくそそひく

とうめ久よう小雲の郭公啼りとゝせぬうめの枝ゆさるらん

壺前橋 壷雲亭一掻

おのつからきゝゝのふるつ寺金宮寺よりよまうちなん

水流園

よしの山よりそてまきん郭公人ふるゝのちらむ夫のなし我もと

仙府 千梅園

恨ある生関ゑへ世をうらん悪さまゝる夫の佐保姫

仝 千柳亭

さく梅の花ハ名よあふ郭公啼やらくひすの声夫のうらむ哉

四生園

吉原や子日の名ふハことれ女の小まつとぬひし徳ゆく

和朝菴雅楽守

ふかゝく名ふかも茂川の奥ところむつましき月のころハまちつり

馬橋 蝶々亭登丸

隅田川きよきあられのみくまん夫ハ霰乃きぬまつりく

波賀 緑竹園一鳳

ふるうしろかる夫ハまことのえのさつくよろさくとまされそのまる

仙府 千菊園

神代の日えまう房りの梅中き見まさそられてまちる枝道

室珠亭舟唄

葛飾 戴斗

ふるさとめてたのみえハ七くさの名も千年よ餅まそ先へつむらん

下総千厚 秋采堂

むらさきの色縁のえゝの繁りもし柳の色も綺よ良やとうらむ

相撲荻野 四季花垣

上野山のゐらせたまふ御身のけとらむ大師の元三乃そら

上野藤岡 庭葎庵玉世

みよしのの桜ハ上野に江戸見坂ちるをとまる松のいく本

仝前橋 壺丈樓一岱

大江戸をつち一尺の流まさくきなるのたれの縁まて草咲

下総香取 百草園道俊

文律園鼓琴

たゝちめりをとゝぬる八梅の香ものにほひよゆくゑそこころ

掛塚 千秋舎萬来

侘住居の窓のきぬにむしろその梅の小枝にまかりまくり

万代舎三春

なまえ津の梅の花笠縫あふてこゝの春るなまよ来なく鶯

桃花樓露井

庭さくいて霞む月えとまゝる春にまたくゝのとさこゝちなれ

駿府 松径舎千代彦

春のきハいろくりほれこたゆものにほひむさこうまりうきむれ久

文福亭豆也

ちきよめちくるのせちるよいちなかく霞やそらよのとなりまん

文貢舎舟積

ゆく緑さん柳や陰ある河のそろしくさとりの枝の小縁

掛塚 文中窓

ゆつかの鮮舟ふ風雨の川岸よ絵のそゝみけし風のまゝ柳

文竹園千代人

山さとの古巣を出てくろくさあくろくゆきそのむつくりに

小金 遁廣鷹

春雨の風えくせる浅緑葉にふ乃垂えあふく本町

大江戸の春のたのしめの旅なれは霞もなかくたなひくらむ

駿府 平々舎長路

難波江の浪の花もおもしろく津の国ふりの春をみてきぬ

風山人

春二月よむ歌にあかし待あくやたちの花見むかしの春に白ひつり

梅園薫

文人をゆたかき春をむかへんと花の日の門をひらきてそおく

島田 馬亭鈴成

むかしへの霞をこえて[illegible]

文泉舎鈴繁

曽我のもしゆるひて解くる氷の春をよそふ春のかくれん

文木舎花丹

互に屠蘇きる祇園ほとりの舞姫ともにやさせてかんさしのもとを

小川待綱

大江戸の春にさえしや曽我のたちかふるにふかくしまう

文酒樓友丹

さゝ舟人ありし日に難波なる春よしあしもあく浪の花見

金谷 秋雨亭渡丸

春の日の梅さしより咲く梅の風おもしろき梅のかや所

文昂舎静丸

春むかふけさしるしあれ一條二條たく門出かな

島田　森々舎繁樹

雪とけるはるは上野の山ふもと清水の流るゝひとの渡らん

文橋舎剱丸

面白き浪の小路のきさらぎもしめりたなびく春の朝霞

掛塚　文集舎未廣

わか松の春の初日さしのぼる後をつゝくは千代の居

文智園直道

むかしより春の始はあたらしく松の世の中めくりつゝ

湖東高島　文古堂海照

今年つむ日はうらうら春ふる雪の山の末ふかき海のつま

文舟舎秉安

たちかへる初の風の和らかに出来し峰の山

仝　文霞園浦近

御春とむかふ柳のいとも所縁ある陣の春

仝　歌志久波　文延門正雄

梅の花たなびくめてわか松の春をまちて旅の行

仝　学仙堂耕楽

うららかの春をまつ霞の花の色ぬるらん

仝　文鏡園兼躬

うらうらと霞の糸を機にかけて春とおり出す[illegible]のさと

仝　松林亭呑根

隅田川や浅草よする舟のむかし江戸紫のいろ

仝　文枝樓梅雄

宮の海よれくる春の日の玉川浪静かなる春ハきにけり

文明舎貫丸

天てらす神代ハ御井のはしめ思ふ霞に霞たなひく

文室舎玉丸

春の日ハうらうらとかすむ富士の嶺を見るもそのまゝ梅の花

五　柳亭徳升

うらはるの光ハ緑しける早春の風つより春の[illegible]

小松園春人

鶯もなく野の梅の花さきて難波津の梅のかをりは[illegible]

萬賀喜菊丸

明わたるそらゆく小舟まつ白の霞のたなひく[illegible]

文齢舎

むかしの霞の立そひて人のこゝろもはるめきにけり

仝　文鎮舎

そのかみ誠来し春の湊の船かゝりてみゆるたなひく舟

戴斗画

○

鶯なる梅にも茶屋の出茶屋にて耳あてゝし我がやのうた

文清舎沖澄

東より来むかふ春ん霞たつ京むかしさゝに江戸もおとらじ

白日園岩主

碧千代にめぐる霞の衣店錦の小路千代もつもりけり

文畑舎里橋

鹿猿入りしも他の休み事ゆう鶯の声つきにも月の声

文月堂照芳

むさしのゝ花を野にて霞の月のうへにもさくら

鶏鳴菴東雲

○

春の来てあさひのもれぬ江戸の庭や千代の二三万艘

松風臺

かすみ霞をぬいに霞たつ春なりしあてさゝき江戸のひかさ

東花園

源氏宮としの簾屋の空もこゝろさくらまちぬえ日の影

歌林堂

ゆるさぬさすまず見人の付け月風に柳のかゝりけり

白毛舎

文々舎

不二で使くえたくひくらにふゆくてのさきこのふまの春の

芳雲狂歌集　全

深くしぬこころありて歌えらひ出んとはことの
しらぬものゝ花に歌よみかけしものは絶し
櫻はさくらのたぐひありてちりてゆく香乃
めでたきひとしらぬまひのごとしきこえよりひ
ためをそのまゝしらぬわが身の月にはくもり
みえんとのかゝけまはこなおもひしてられ
ものゝこゝろにいひやりめる歌をまことのごとく
わからぬ心をとらへんれいたゞむかうり感せられ
てよき事かゝるあさまなるやさらふをいひあやし

よしの山花さへ咲ハ人ことによそにまよひてつらしかなしえ　恵喜

春なれはよしのゝ里にもえいつる巌の花のさかりなりけり　秋田　古文

いかにそやさくら花ちるよしの山花のさかりにおれハおくまし　川舟

よしの山花ふりしくにゆく春の名残をせる角のえたにさく　名古屋　弘器

吉野山ある限りの花ゆゑに八重さくらまてのおくかやかある　江戸　古安

玉勝間く限なくしられハよし野川岩根にかゝるなみもありけり　奈加芳

よしの山なかの花をかさりの深さとも花かきさるゆめのさよの夢　之枝

吉野山すくる人おくつゝかの花にむかふてきゝつゝそてつゆむ　白井　秀葉

うらし野川くきちゆく限ふさしの花のくされ川のよしのさくら花　春幹

宮人の紙さくさきよし野川風のおとえくさかりしとうん　八王子　一極

花く陽春ちむくまてめくれハ月に花さかりこゝよし　おもかけ　大阪　古浦

花さかり夜となりちてよしのゝ山青ふかされく花のかけかりけり　尾張　一代

とし毎にかくのよしのゝ夜さくらくあかくよの桜ちらしこそ世の春の花　摂津八日市　孔方

咲そふ夜よのかくらよしのゝ山ふかくちはくきさらてしらく　名古屋　弘業

こよしのくもの花やまのまへてかくんかくふくえるまゆるつくちの月　大坂　豊村

のかくくちかんとよしのはれハよし野山大くさくらかほくてよりけり　相模　久年

よしの川雲のふまさる吉野の花すくれ　尾やおもろさくゆく　市後

吉野川ゆくとさらしてそちよれハ宮まちてかの入身ふかむるをの　川越　古永

いさかなくきしのかハよしの川ゆるとろ風のきらうかしゆく　相模　浪風

吉野山それのおゆけろかくらかしらふく雲よかくまつ　白井　友宗

ゆかる花の御井のこ人よりかるかハらとえぬくさてきくかしきに　名古屋　秀枝

よしの川くら夜いかくの花つかまれのえきしのかてきるさる　大阪　水草

うちわ山たかの秋風さかしくれいさくちぬまん花めしつらう　下総　古氏

吉野やまみのしてまかくさるの佛の法とこふてくえきさく　福寿

こゝろ山花の盛をけつく杖にうしろかへるあちこちこそあれ　深人

少しくよし野の川にふるゝ雪ハちりかゝる花にまかひてそちる　玄㞍

よしの川岩うつ音もさえゆく月のかけの流れにさやけき夜の秋　お稲　宵丹

芳野山よのうきことやきゝつらん耳無の滝をたのむふみの之　日　吉枝

よし野山みよしの花に雲かゝりたちかへるゝハ一本もなかりけり　玄菖

高根より風に花の散るよしの川くるゝ波のさかりしらなみのあら　久丸

咲のこる花やなかりてよしの山ふしにひうしものゝ奈んけ　池人

ととちうのかちろ

よしの川ちりかゝりてさへ花にあかりまかりとおもふゆくへし　東京まうけ

来る日に旅路のうさもわすれかね花に心ひかれゆくみよしのゝ山　吐佛

みよしのゝ時さく人ハたへ紙をもてきまさりて尽ぬるこゝの季に　梅侯

世をてしこゝのをさぬ人にふしみるふもとにわかのゝ山まかり芳隣　績くる

よし野山こゝしに花にかゝりかけのさくらのちぎりかな

花のうつに霧そおくなるよし野やまちのまちのしつくら　桐丸

さくら狩くらし野の里に旅寝してむかふまつりに白雲のあかり　風虎

吉野川ゆきゝの人もさなくなく哀ひをかくしておやまなかる旅　琴盤

里びとハきくやきくまゝやかへる鹿こゑのくるまとさくらのみ　今俊

てる月のかけをとめにはいつのまに見えかくしてかゝるや　京　銀丸

よしのの山をそれの花をとりとるくまく花ざかりきまてあかくしてうらねん　直つ安

吉野川みかくる花をいたへそこんまてこえおく花あかりて　梅あや

よるころによしのゝ山のさくら花なかなかの人にはいとやかならんむ　高荘

きる人々くさきいきして桜さくよし野よくこそゆくそゆかなん　雅楽頭

吉野からふきたる人秋ハよし野山月のかつらのもみぢのしらくら　一笑

白妙ちる花の花をもよし野川うきさくらのかけゆくくるん

山の名ハいつの花もかもふうるみのむかん春桜かすみの花のたりくハ　大通　まる弘

よし野山花見んありきてくるさハあかぬちらさへのこる短冊　花海　乙人

たみち花をとらむとすれハよしのゝ木の桜にもこゝろあり　川北　芝丘

吉野山あまたの中ニ座頭の咲のこしくる花はとこる　お暦　女常

樹のあの釘ぬくなくよしの山ゆきてくしてあられさりける　月　有丹

こよしのゝ旅行につれしふるさとを思ふる雪に花さかりそて　上毛　守次

かくきんとくはかきくあらちせりこゝろの緑のやまいろのあとを　大館　桐左

こよしのゝ花さへしまてよしのゝむさとくるをこゝる一人旅　大月　龍海

よしのの山ざくらしそうはうつゐてくる春たつかあかまかふう卯　川越　風笈

花さくらみつみつよしの山をまつかせんとおかふおちて来を　川俣　今住

花つけにあかれしさくなくよしの山さふさ花の卵二人をせんとや　月　一栞

ふく風とちとゝ峰のよしの山ちれとやさしくふさくてやちる　上毛　花鳥

よしの川きしの山ちさくさハ今のくらけのうけやらてかしむ　秋田　古文

こよしのゝこゝ旅つゝらくは名のこゝゝく桜の自ひさてはくりつきぬ　河付　白人

よふきのよ人につゝるあやちらつちつゝるのとらのめの山花そ　上毛　居村

よしの山花よりのちのこゝろのはまつ桜くらのひらつくふる　上総本荘　生董

吉野山つゝよりうらしうらそしむ雲さうさくらの本地のさゝつき　秋田　吉家

こゝろのふくむへうらうきつ霧きらくさうせつゆるあふのこゝろ　川子

よしの川あたりく桜のいるをゆくいかせの山や緑むさしとはする　升屋　嬌丸

こよしのゝ山のあらふくのふつ草よつ世をうくひてそのいてくるやは　足利　古氏

花さくら桜卵しはりんまてくろといづくうつまれうまむこよし地　川越　守永

よしの川くさくんふすての花さく花さくろゝるさしの花さかし　仝　桜麓

よしの川花の雪まて滴りしうけておちくるのさくるの花の丹　川俣　花季

よしの山さくらふ人のつゝしきてくふすゝの里ハ花つゝくされさく　仝　有季

樹さくらさきて花つし花こよしのゝこゝろのまて尾をすまぬ花の店ころ　お嶋　くく

こゝ吉野のこゝろの花さへありけく桜ちりつと風のまにゆく
尾張大田 棟成

よしの山花のさかりをされていつまでもさそふ風のこゝろのけふなりけり
川越 桜雛

見わたせばゆるせよしのゝ花さへちりなん桜は松に峰山木
仝

川浪にうかむ木の葉とおもふ川鴨の羽風にまよふちるなる
琵琶丸

さきそむる花の色やひとつにふつくひくおちるもよしのゝ宮の滝
唐よし

よしの山木の下かげの露さやかに花をさそふしら雲のゆふさ風
浪花 姉子

吉野川いせの山におのがいろなこさいくひく桜くものそら
大坂 梅好

たちつゞくさくらよしのの盛にはたれしまずにほふもちせり
おゆり丸

まくらにも浪のよるさへ花にちるやまぶきの山のこゝろよき池
遠江 東今子

またきつゝ花ふるころよしのゝ山のさくらもちるらん
花明

くものゐのふさをさくらんよしの川にかゝれちる浪の調べ
京花 素盾

吉野山のおくのこけりふかきのちるのはなかり
羅世

みれてうきよをふみわけし山きくの花とやまもの色
仙台 一茎

よしのよくこゝろやまの花つんまでこゝろへひとのこゝろを
尾張津島 寐覚

おのれもおもひやよきる春来るの子ゝちるくなくて
名古屋 日々恩

いまさらに咲れむかしよしの山ふきのさくらとみえしものを
市伯

花のけふも盛くよしの山のさくらくしさかりこそみゆる
郡山 吉田保

ちるなとおもふさくら花のたちきてたちひく春の月の
江戸 春道

さくらの花盛のかすみのいろぬるさくまさよし北川
居殿

よしの川ちりて花の下花をおもふけのまにて流れる浪
相生 香伯

松やうつみ吉野の春の桜ちらしてよふりかゝる
米沢 南字

みとれてはやさぬ露にちるやまさくらよし神の森
日 首則

さくら紙の春ならぬはし吉野川今さかりさく花れてはら桜そ
大坂 花鳥

りくちらうみ春をまてきられくよしの川ありてはなのゆくこそみえぬを
京 漱丈

よしの山花なくふたれかくゝりくはかる解つゝし花　孫谷

吉野川岩波源を転ころんでくるやくもなのうつろひぬらん　ひろよし

花のちりしを惜みして吉野山ゆりし桜はちりはしとゞめん　さくら所

吉根のさくらそてよしの川なかれもみちしらのゆかりかな　春幹

花る前花の色まさるらしよしの山のさくらむく咲つゞきさらに　楽包

花の色の花の山はかみちやまあけがあるくるなれる見えりゝ　亜喜

よしの川浪はゆらしの花ちりてちりくる花を又さそひゆく　玉旌

吉野川みなかゆりりのひろこゝろさくらに吉野桜さくらの花　八景　亜友

ゆくさく花さかんよしやはなも雲のかれとたえぬこよしのゝ山　お梅　文来

ちるさくらありてみきこよしのゝちらしゆきさくらちりくる　白井　今つら

ゆくての花ちく流れてよしの川岩ほにくゝくさらきゆく花　梅らし

かゝぐきみ何をしらてよしのゝ山のあをあらふかれてやさめく　川俣　稲丸

ぬり師走えはりまてへるまん吉れ何よの山かさくら能代まで　おなつく

よし野山はるえちら雲ちられは雪つもるのうちそはりれて宿る　亀丈

うるらひ小稲つまこせくこよのゝよし野はそれのうちそなる　七化

はりまでおかし花はりまてこ小さくらねて松のうちそうこよし野の山　梨葉　芳柏

あるさのうさのをるえやくきこゆらん丹前の屏そまつむらる　大月　ちる時

吉野川よしちる山のつしらなれのろのふくるまで見りそてへる　お梅　一盛

此の花のかかゝくれこよしのゝ再面のうろみ高かにそ付て　同

ふの花の雪りくえかりかさるよし野はかゝる時しらぬやま　津内　つ鶴

よしの山都はくめよ花の雪るれをかそゝふおふふ何ゝそむ　梅一

花のうけうこられはよし野川ちてゝかひりりそこまるみれはゆ　小松井　石竹

とし野山みかゝの花の梢のもはまるつかゝこはなるまみの家　小袋　仲十寸

吉野河なかに梅ふく山ふさはちゝのこ底うつえ花のさくらん　仝　羽永